

## 公表 事業所における自己評価総括表（放課後等デイサービス）

○事業所名	こども発達支援たんたん		
○保護者評価実施期間		2024/11/1	～ 2024/11/29
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数) 15名
○従業者評価実施期間		2024/11/1	～ 2024/11/29
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2024/12/25		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に 行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	進路支援型放課後等デイサービスの推進	<p>中高校生世代は、短い期間でライフステージが変わる世代でもあり、発達に特性のある方のサポート体制が少なく、将来に向けた不安が増す世代もある。</p> <p>発達に特性のある方が社会で活躍できるためには、「自己理解」と「適正」の2つが大切であり、一人ひとりが将来に向けて、自分に合った進路を選択できるよう支援を行っていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の状況に合わせた「課題の整理」</li> <li>・対処方法の検討</li> <li>・将来の職業選択について</li> <li>・学習支援</li> <li>・進路選択に必要な情報収集やサポート、など個々に必要に応じたプログラムを提供する。</li> </ul>
2	保護者支援及び関係機関連携	<p>保護者からの相談（生活上や学校等での困り感）に応じ、問題解決や改善策に積極的に取り組んでいる。</p> <p>生活上での、困り感や保護者の不安・心配が出てきた場合には、関係機関等と緊密に連携を図り、その改善策に取り組むことを進めている。</p>	引き続き、保護者のニーズに応えていけるよう、関係機関との連携を緊密に図っていく。また、保護者の不安や悩みに寄り添った支援を提供し、安心していただけよう努める。
3	専門職による支援	公認心理師、言語聴覚士、精神保健福祉士、社会福祉士など専門職による個別支援などに対応している。	個別支援計画を基に専門的支援計画を作成し、利用者及びご家族の要望に沿った支援に取り組んでいく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組 や工夫が必要な点等
1	発達支援室等のスペース	開設基準は満たしているが、利用者の多くは小学校の低学年男子であり、個々の運動量も多い。壁・柱やガラスなど危険と判断する場所は、ケガや事故につながらないよう配慮して、支援を行う。	運動については、近所にある子育て交流施設も適宜活用し、ダイナミックな運動はその場所で対応する。また、事業所内は限られたスペースのため、スペースに見合った支援を行う。
2	地域に開かれた事業運営	隣接は、商用施設やアパートであり、特に何も行っていない。	町内のイベントや町内役員との接点も無いため、今後検討も必要と考える。
3	保護者同士で交流する機会	現在は、保護者同士の交流は行っていないが、交流を望んでいる少数意見もある。	今後、同学年や学年の近い保護者同士の交流の機会や、保護者を対象とした家族教室や、ペアレントトレーニングの開催を検討する。

## 公表 護者等からの事業所評価の集計結果（放課後等デイサービス）

事業所名	こども発達支援たんたん	公表日	令和6年12月25日					
		利用児童数	17名（令和6年11月1日現在）				回収数	88%
	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・体制整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	7	4	2	2	・わが子にとっては、スペースが丁度いいと思います。 ・真ん中の柱の分もあって、少し狭いのかな（体を動かす時等）という印象です。 ・利用者の人数を制限していれば、十分だと思います。	構造上、重要な柱であるため、撤去できません。安全に配慮し、支援していきます。	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	11			4	・目配りが出来るところに職員がいて、安心するそうです。	適切に行っています。	
	3 <small>工事工場は、ここにいつかワイヤー構造でこれまで現実によっています</small> と思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、パリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	9	2		4	・空間は、気持ちのいいところです。	コンパクトな空間になっています。 また、対象の利用児がないため、パリアフリー化はしておりません。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	12	1		2	・いつもきれいにされてあり、安心しています。 ・真ん中の柱が危ないのかなとおもいます。（特に小さい子は）	構造上、重要な柱であるため、撤去できません。安全に配慮し、支援していきます。	
適切な支援の提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	11	1	1	2	・きめ細かいところを理解していただいた事。ありがたいと思っています。	個別支援計画を基に専門的支援計画を作成し、利用者及びご家族の要望に沿った支援に取り組んでいきます。	
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	11	2		2			
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	11	2		2	・見てほしい事などがしっかりと組み込まれているので、すごく安心できます。 ・まだ、計画作成前そのため。	個別支援計画に沿った支援を行っています。ご要望があれば、いつでも対応いたします。	
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	11	2		2			
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	10	1	1	3	・1回しか利用していない。	個別支援計画に沿った支援を行っています。ご要望があれば、いつでも対応いたします。	
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	9	1	1	4	・日々成長を考えて、指導されないと信じてお任せできます。	こども同士の関わりのなかで、こども自身の自主性・主体性が導き出せるような支援を行っていきます。	
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	3	1	1	10			
保護者への説明等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	14			1	・とてもわかりやすく、安心してお任せできます。	ありがとうございます。ご不明な点や疑問に思ったことは、いつでも職員にお聞きください。	
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	14			1			
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	7	1	2	5			
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	9	3	1	2			
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	11	2		2			
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	11	2		2			
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2		3	10			
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	10	3		2			
	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	10	2	1	2			
	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	8	1	1	5			
	22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	13			2	・とても個人情報の取り扱いしっかりされています。	個人情報の取り扱いに関しては、今後も十分に留意して取り扱っていきます。	

非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	7	1		7	・セキュリティがしっかりとされていて、安全が保たれています。	各種マニュアルは、整備されています。玄関の棚にファイル化していますので、いつでもご覧ください。また、訓練の実施についても、ホームページにてご報告いたします。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	4			11		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	9			6		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	11			4		
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	13	2			・我が家に入って行くので、親としては安心感があります。	ありがとうございます。今後もお子さまが安心して通所が楽しめるよう、努めて参ります。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	12	2	1		・楽しみにしていますが、学校も忙しくなり、通所日は休むこともあります。 ・帰ってくると、必ず「楽しかった」とニッコリしているので、こちらも嬉しいです。 ・通い始めたばかりで、わからない事が多いが、子どもは次回を楽しみにしている。	ありがとうございます。今後もお子さまが通所が楽しみになるように事業所の雰囲気づくりや活動提供を行って参ります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	11	3		1	・職員とお話が楽しい、嬉しい、良かった、うるさい（職員で無くお友達）→対応で走り回っています。と、少し話してくれています。 ・気づいたこと等、何でもお話しして下さるので、とても信頼できるし満足しています。	ありがとうございます。支援内容が固定化されないよう留意しながら、取り組みます。今後もたんたんに通所することが子ども達にとって、有意義な時間となるよう努めて参ります。

## 公表 事業所における自己評価結果（放課後等デイサービス）

事業所名	こども発達支援たんたん				公表日	令和6年12月25日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	2		・開設基準は満たしているが、利用者の多くは小学校の低学年男子であり、個々の運動量も多い。壁・柱やガラスなど危険と判断する場所は、ケガや事故につながらないよう配慮して、支援を行う。	
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7				
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	3	・支援室の中央にある柱が危ない。布で保護をしているが、いつか体を強くぶつけて怪我をするのではないかと心配に感じる。 ・子どものための事業所なので子供用の立ち	・全体を見渡せる環境であり、利用児にわかりやすい構造だと思う反面、トイレを増やしたり、柱を撤去できない問題点もある。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	2	・手洗いの洗面台が小さいため、手洗いが難しく、また、手洗いや手拭くときに床が水浸しになりやすい。適宜、職員が床を拭いたり、児童を観察する必要がある。 ・マットを敷いたことで安全に支援を進めることができる。 ・運動できるゆとりのある広さが欲しいところである。	・利用終了の時には、利用児が清掃を実施し、その後改めて職員が清掃をしている。利用人数や活動内容によっては、快適な空間とは言えないが、空間にあった活動をしている。	
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		・個室の部屋は、相談室しか無いが、支援や自主的な学習にも使っている。	個別支援で使いたい複数の個室が欲しいところであるが、カーテンでのパーテーションを作成し、代用している。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	3	4			
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	・年1回の保護者向けの自己評価表の実施や、数か月ごとの面談で業務改善につなげている。 ・保護者からの評価は、今回が初めて。	今後も保護者の意向等把握し、より良い支援のため業務改善に努めていく。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	2			
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	3		・第三者評価は実施していないが、コストの部分で改善があれば、外部評価も検討したい。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		・支援ミーティングや社内研修等の中で、児童を支援していくうえでの問題点や検討事項等の話し合いを行っている。また、雇用形態を問わず全職員が社内外の参加できる機会の設定、専門職の充実など、より質の高い療育支援の提供を目指し、他職種が連携することで職員が学ぶ機会を確保している。	職員（児童指導員）から他施設への現場研修の要望があり、スキルアップのため他施設への研修を実施した。今後も、職員からの要望も検討し、職員全員が学ぶ機会を確保する。	
適切	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	1	6		ガイドラインの発達の5領域や子どもの発達段階に合わせ、職員間で話し合いを適切に行い、支援プログラムを作成しているが、公表は出来ていないため、これから実施する。	
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		・保護者との定期的な面談や必要に応じた相談等により、保護者や本人からのニーズを確認し、課題については個別支援計画等で検討したうえで、作成している。また、必要に応じて学校や相談支援事業所など関係機関とも連携しながら、作成している。	今後も、保護者のニーズや利用児の課題を適切に分析し、満足感を得られる支援を継続して行っていく。 また、必要があれば保護者の同意を得て、学校や学童とも連携し、支援の方向性の共有をはかっていく。	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7				
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		・支援開始前、支援終了後に必ず職員間で支援計画を確認、共有し計画に沿って毎回支援を行っている。	利用児の前回活動時の様子や配慮する事項など、プログラムの共有や職員の役割分担など念入りに打合せを行っているが、支援計画会議をもっと定期的に開催することを検討している。	
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	1	・わかりません。 ・アセスメントツールやテキスト等を参考にしたり、機能訓練担当職員による専門的なアセスメントにより、実施している。今後も引き続き、よりよい支援が出来るよう、ツール等の検討をしていきたいと考えている。 ・アセスメントツールは、利用していない	アセスメントツールは使用していないが、今後は当事業所にあったアセスメントツールを使っていきたい。	
適切	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		・ガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」に即した支援内容（本人の支援、家族の支援）などを踏まえ、それぞれの子どもに適切な支援の優先順位をつけて、具体的な支援内容を設定している。	ガイドラインの項目をよく確認し、適切で具体的な短期目標、長期目標など今よりも計画的に設定していく。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		・相談しながら決めている。 ・児童指導員、機能訓練担当職員がチームとなり、各職員の得意分野を活かして、プログラムを構成している。日々の振り返りも行っており、改善点が反映されている。	プログラムの目的や、その日の利用児の様子に合わせて、支援が出来るようチームで連携を図っていく。	

な支援の提供	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ツールが少なく、マンネリ化している。</li> <li>・利用児の性格や発達にあったプログラムを考え、新鮮味のある内容になるよう工夫している。</li> <li>・児童の発達状況に合わせて、自立課題、運動課題、外出活動や出前講座などいろいろな活動を提案し、組み合わせることで、同じ活動が続かないように工夫している。</li> </ul>	利用児の発達や個々の課題に合わせたプログラムを立案し、プログラムが固定化しないように工夫しているが、職員それぞれの専門性を活かしたプログラムの立案を行っていく。
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できるだけ、支援開始前に支援内容について共有しプログラム内容を検討しているが、その日の児童の状態によっては予定していた支援内容ができないこともある。職員間で児童について情報共有し、連携して支援できるよう今後も継続して検討していく必要がある。</li> <li>・なるべく職員がいる時間に打ち合わせを行い、支援の内容と送迎の分担などを確認している。</li> <li>・朝礼や支援ミーティング内で行っている。朝礼等に活動予定表、支援の内容等について確認し、詳細が必要と思われれば、活動担当が説明している。</li> <li>・始業時にその日の支援やスタッフの動きについて確認することが必要である。</li> </ul>	利用児の前回活動時の様子や配慮する事項やプログラムの共有、職員の役割分担について今後も細かく打ち合わせを行っていく。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少なくとも半年に1回、モニタリングを行い、計画を策定するために個別支援会議を開催し、計画の見直し等を行っている。</li> </ul>	・半年ごとにモニタリングを行い。個別支援の見直しを行っているが、こどもの状態が変化したときには適宜、支援計画の見直しを行っていく。
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	5 1		おおむね、4つの基本活動を組み合わせて支援を行っているが、移行支援・地域支援・地域連携については今後、更なる取り組みが必要。
	25 こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラムもある程度自分で選べるようにしていきたい。</li> <li>・伝えるべきことは伝えるが、子どもの意思を尊重している。</li> <li>・子どもの意思を尊重し、自主性を育てられるような支援を積極的に行っている。</li> </ul>	今後も利用児の意思を尊重し、自主性を育てられるような支援を積極的に行っていきたい。
	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		
	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3 2		
関係機関や保護者との連携	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当・児発管が確認を行っている。</li> <li>・保護者及び学校に行事・下校時間等の確認をする。送迎時の対応を行ったり、他の児童との兼ね合いで送迎が遅延する場合には、事前に学校へ連絡をしている。また、送迎時にその日の様子や体調を確認している。</li> </ul>	利用開始前に学校・学童に挨拶に行き、顔の見える連携を心がけているため、継続していく。
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	1 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や相談支援事業所等へ確認し、必要に応じて情報共有を行っていきたい。</li> </ul>	保護者や相談支援事業所等へ確認し、必要に応じて今まで以上の情報共有を行っていきたい。
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2 3		事例はないが、今後、必要時情報提供をしていきたい。
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門機関から案内があれば、研修会に参加したり児童の状況に応じて、専門機関から助言をいただきながら支援する。また、研修を受講した職員は、報告するとともに、知識を共有する。</li> </ul>	スーパーバイズや助言は受けていないため、今後、受ける機会があれば受けていきたい。
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4 3		長期学校休業日に地域の子育て交流施設の利用はあるが、放課後児童クラブなどの交流はないため、今後、検討していきたい。
	33 (自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	3 4		
	34 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2 5		今後、家族教室やペアレントトレーニングを行う予定。
	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		
	37 放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		
	38 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		7		現在は行っていないが、今後、家族教室やペアレントトレーニングの機会を活かし。保護者同士の交流をはかる。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	1		HP、SNS（インスタグラム）や支援システム「HUG」やメールにより、発信しているが、今後は更に発信を強化したいと考えている。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	1		
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		7		今後、検討していく。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7			
非常時等の対応	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4			アレルギーの子供はいないが、受け入れる場合は、医師の指示書等をもとに保護者と相談しながら、対応する。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			支援の中で安全管理、危機管理には職員間で連携を取り、必要な措置を講じている。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	3		安全計画について、今後HPに掲載したり、保護者へは手紙を出すなどして再度、周知につとめる。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7			事業所内研修だけでなく、外部研修も活用して虐待防止への理解を深める機会を作っていく。また、セルフチェックリストなども活用し、日々の支援の振り返りにつとめていく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4	1		身体拘束を行う場合についての周知が不十分である可能性があるため、今後、再度周知をはかっていく。